



菅波 茂

人がいて家族がいて地域コミュニティがあり、国境を越えても人がいて家族がいて地域コミュニティがある。そこで人は出会う。そして確認する。即ち、世界の市民の共通の価値は「家族の今日の生活と、明日の希望」である。この価値が表現できる状態が「市民の平和」である。相互理解—相互支援—相互信頼が「市民の平和」に必要な多様性の共存を可能にする。

地域おこしはローカルにして、国境を越えようとグローバルになる。行動の最終目標は「尊敬と信頼」である。その担い手にNGO／NPOがなる時代が来た。AMDA、広島県そして財団法人

市民の平和学

ひろしま国際センターの3者共催で「NGOカレッジ」講座が広島県国際貢献構想のもとに、広島国際協力センターで7月5日から11日まで開催される。講座内容は「地域おこしと国際貢献」の両視点からNGO人材養成に必須の科目および事例紹介。日本でも屈指の講師陣が集中的に指導してくれる。

8月のバンングラデンユへのスタディーツア—では現地のNGO、国際協力事業団、青年海外協力隊などの現場から、国際貢献のあり方を研修する予定である。

「NGOカレッジ」講座への反応は北海道から鹿児島県まで全国からあった。50人の定員に166人の応募があった。参加理由は多種多様だったが、すべて「世界の

役に立ちたい」という共通の熱意にあふれていた。定員を50人から60人に増員したが、残りの約100人の応募者の方々には本当に申し訳ない気持ちである。せっかくのご縁は必ず生かして行くつもりである。

現在の世界秩序の基本単位は「民族自決の原則」に基づいた国家である。情報通信技術や輸送の発達もたらした経済のグローバル化は、基本単位の国家を越えた意識と行動を求めてきている。

しかし、世界の市民の共通の価値は「家族の今日の生活と、明日の希望」である。国家に所属し、国家を越えた判断は良き体験を必要とする。「NGOカレッジ」講座が「市民の平和学」となれば幸いである。

(アツア医師連絡協議会会長・題字は筆者)